



ゆうすいの詩集 6

さくらじまゆうすい

地球の人類よ永遠に

宇宙って無限なのだろうか

宇宙には果てがあるのだろうか

果ての向こうにまた別の宇宙があるのだろうか

そのまた果ての向こうは無限大なのだろうか

考えれば考えるほど無限だ

地球以外の星にも人類は存在するのだろうか

その星は何億光年も離れているのだろうか

光の速さで何億年も離れているのなら

お互いの星の人類は出会えることはあるのだろうか

地球の人類は永遠に続くのだろうか

56億7千万年後には地球は滅びるかもしれないらしい

太陽が膨張し地球まで飲み込まれるらしい

でもそのとき救世主が現れるらしい

どこかよその星に移住するのだろうか

地球の人類は永遠に続いて欲しい

希望を失うような予言なんて信じたくない

案外地球の人類の未来は明るいだろう

私の頭の中にはハッピーエンドの未来しかない

昔の恋なんてさよなら

昔の恋なんて忘れてしまおう

昔の恋なんてうまくいかない

十年前に付き合っていた

そんな相手なんてとっくに自分のことなんか忘れているだろう

今と未来が大事

今出会っている人を大切にしよう

過去はもう終わったこと

もう取り戻すことはできない

特に女なんて過去の恋なんて忘れるもの

男の方が過去の恋にこだわっている

さあ新しい恋を見つけよう

何も恐れる必要なんてない

だめでもともと

積極的に行こう

独身で恋人のいる人といない人は半分半分

まだ可能性はある

チャンスはあるはずだ

心と心

人間関係を変えたいなら

言葉や態度より先に

心を変えよう

心と心で通じ合っている

そう信じよう

自分の方から優しく温かい心になれば

周りの人たちも優しく温かい心になる

そうすればお互い言葉や態度も自然と変わるもの

周りの人たちが急に変わって見えてくる

新しい人との出会いも楽しくなってくる

自分自身の心がけ次第で

人間関係を大切なことにできる

全員とうまく付き合っていけるわけじゃなけど

そのうち気の合う仲間とも出会えるだろう

一生大切にできる人とも巡り合えるかもしれない

周りの人たちに感謝できるようになれば

周りの人々の態度も変わってくる

人間同士のいさかいごともなくなるかもしれない

未来へのプレゼント

現在のことは過去からのプレゼント

未来のことは現在からのプレゼント

現在の行いが未来の自分を定める

過去の失敗を参考にして現在に活かせばいい

現在の行いの選択が未来を決めると知れば

おのずと現在の行いは変わるはず

過去の行いによって現在損をしたと

散々思い知らされてきた

逆に過去の行いによってすばらしいプレゼントを受けたこともある

プレゼントを受け取るたびに感謝する

感謝は次の感謝を産む

逆に過ちは怒りや憎しみから始まることが多い

世の中自分の思い通りいなくて当たり前だ

いちいち思い通りいかないからと怒っていたらきりがない

「ああ、またか」と思って、早く気分を切り替えた方がいい

当然、自分にとって都合のいいことも悪いことも両方起こる

一回一回の出来事に一喜一憂して当然だが

嫌なことは「ああ、またか」と早目に忘れて

いい思い出を大切に感謝した方がいい

現在の行いが未来への素敵なプレゼント

そういうことを心がけていれば幸せでしょう

人を信じること

人を信じられるようになろう

その前に自分自身を信じられるようになろう

自分自身のことを疑ってばかりいると

人のことも疑ってばかりいるようになる

人に心があるということは

人にはそれぞれ神仏から与えられた魂がある

当然自分自身も神仏の心の一部を預けられている

一人一人の人間は尊い

しかし、神様のような人間もいなければ

悪魔のような人間もない

人はそれぞれ過ちを犯す

完璧な人間などいない

人を非難することは簡単だが

自分自身も非難されるべきところはあるはず

人を非難するたびに自分自身のことを嫌いになる

人を非難することはやめて

人も自分自身も許すことを心がけよう

人も自分自身のことも許せるようになれば

人も自分自身のこと信じられるようになるだろう

この世界に生まれて

この世界に僕なんか必要じゃない

そんなことを思う人は僕一人だけじゃないのだろうか

僕は何のために生まれてきたのだろうか

疑問は一生解けずに苦しむかもしれない

僕は誰からも必要とされていない

あなたもそんなことを思うことがあるのだろうか

君は世界中で一番大切な人だ

そんな言葉を一度でもいいから

言われてみたいし言ってみたい

僕以外のみんなは楽しそうに見える

あなたもそんなことを思うことがあるだろうか

一度でもいいから誰かと本気で愛し合いたい

でも愛を求めても愛は逃げていく

僕には愛情のひとかけらもないとでもいうのだろうか

僕の愛情はただのわがままなのだろうか

それとも僕の心が病んでいるからなのだろうか

まだ心が闇の中をさまよっている

このまま独りで生きていくような

つらいだけの人生をもう終わりにしたい

大切な誰かと出会いたい

人の役に立ちたい

僕は大した人間じゃない

僕は自分のことを大物だと勘違いしてきた

そのため何か大きなことをやらなければならない気がしていた

それで苦しみもがいていた

まるでその大物の亡霊にとりつかれているようだった

最近遠くまで行って人の話を聞いてみて分かった

おかげで自分が勘違いしていることがわかった

僕は大した人間じゃない

とにかく人と会って話をする

これも人間にとって大事なことだろう

思い出してみれば今までいろんな人たちに出会ってきた

またいつか会えるといいね

僕は最近おしゃれにもなってきた

来ている服も変わったし

ピンキーリングやネックレスもつけている

髪も少しずつ伸ばしている

今まで人の役に立ってないって思ってたけど

少しは人の役に立っているんじゃないかな

何か仕事もできそうな気がしてきた

これからはいろんな方面で人の役に立ちたい

そして、最後は幸せな人生だったと思いたい

言葉

人は生かされている

人は独りでは生きていけない

人は自分のことさえわからないことがある

気づいたなら言ってあげた方がいい

あなたはこうした方がいいよと

人は言葉にしなくても通じ合っていると思っ込んでいる

人に正確に伝えるには言葉によるしかない

遠まわしな言葉で伝えるのもやめた方がいい

誤解される可能性だつてある

なぜ人はストレートに言葉で伝えられないのだろう

ストレートに伝えてもらった方が楽だ

人が言葉を持った理由がわからなくなることがある

人は人を苦しめるために言葉を持ったのではない

人間同士助け合うために言葉はあるのではなからうか

そんなことを思っているのは私だけじゃないはずだ

人にやさしくされるとどうしていいかわからなかったが

最近感謝できるようになってきた

幸せになれると信じよう

自分のことを決めつけない方がいい

弱いとか 鈍いとか 馬鹿だとか

自分のことを決めつけない方がいい

運が悪いとか 不幸だとか みじめだとか

人間は生きていて

いいときもあれば悪いときもある

悪いことばかり思い出してくよくよ気にしてたら

本当に悪いことばかり起こってしまうよ

自分のいいところを探そう

自分はラッキーだということを見つけよう

本当にラッキーになるまで時間はかかるかもしれない

それでも自分が信じたとおりにまっすぐに生きていたら

そのうち自分はラッキーな人間だって気づくだろう

人間の美しさって内面から出てくるもの

ただ見た目の美しさだけで人は判断しない

いつでも心は美しくありたい

心が傷ついたとしても

いつか時が癒してくれる

ずっと自分を信じて生きていこう

自分自身のルール

二度と同じ過ちは繰り返さない

人間生きていれば過ちを犯すもの

いつか自分の犯した罪は間違いだったと気づくだろう

気づいたら過ちをやめてしまえばいい

しかし過ちを犯している間は

なかなか抜け出せないもの

なぜ過ちを犯したのか後で気づかされるもの

魔がさすということもあるのだろう

だから自分自身でルールを作るしかない

ここまでは許してここからは許せないと

自分自身で許せないことをしたら

自分自身のことを信じられないのも仕方がない

自分自身のことを嫌いになる前に

自分の過ちは自分で治そう

人に謝ることも大事

そして最後は自分で判断すること

自分自身がしっかりしていなければ

人を助けることもできない

自分自身で決めたルールは守ろう

ゆうすいの詩集 6

<http://p.booklog.jp/book/59623>

著者：さくらじまゆうすい

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dpmpct5160/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/59623>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/59623>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ